

研究機関：広島大学

研究課題名	切除不能膵臓癌に対する化学療法の実態調査 多施設共同研究		
研究責任者名	広島大学病院 消化器・代謝内科 教授 茶山 一彰		
研究期間	2016年9月（倫理委員会承認後） ～ 2019年1月		
対象者	2011年4月1日から2016年3月31日までに、広島大学病院で化学療法を行った切除不能な膵臓癌の患者さんを対象とします。		
意義・目的	膵臓癌は診断されたときには高度な進行癌であることが多く難治癌とされています。2013年以降に切除不能な膵臓癌に対する化学療法として新たに FOLFIRINOX 療法、GEM+nab-PTX 併用療法が承認されました。これらの治療方法が承認される前後の膵臓癌に対する化学療法の治療成績（治療効果、副作用など）を集積して、それぞれの治療の有益性を検証するためにこの研究が計画されました。		
方法	本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。 カルテから転記する内容は年齢、性別、治療開始時の全身状態（Performance Status）、初診日、診断日、診断方法（病理検体採取方法、病理学的所見）、病変の部位、TMN 分類、治療方法（放射線化学療法・化学療法）、治療内容（化学療法の種類、胆管ステント留置の有無）、転帰（一次治療が無効と判断した日時・理由、予後）です。また FOLFIRINOX 療法、GEM+nab-PTX 併用療法については追加で血液検査データ（好中球数、リンパ球数、総ビリルビン量、アルブミン値、CRP、UGT1A1 遺伝子多型、CEA、CA19-9、CA125、DUPAN-2、Span-1）、治療内容の詳細（抗癌剤の投与量、体表面積当たりの抗癌剤の投与量、抗癌剤の減量の有無、抗腫瘍効果、副作用（血球減少、食欲低下、嘔吐、下痢、口内炎、倦怠感、味覚障害、感染症、アナフィラキシー、末梢神経障害、脱毛など）も転記します。 （個人が特定出来る情報は転記しません）		
共同研究機関	以下の機関と共同で研究します。 県立広島病院、広島総合病院、広島市民病院、安佐市民病院、呉医療センター、広島赤十字・原爆病院、尾道総合病院、呉共済病院、中国労災病院、広島記念病院、東広島医療センター、済生会広島病院、済生会呉病院、三菱三原病院（広島大学に情報を集め解析します）		
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。		
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel：082-257-5192 広島大学病院消化器・代謝内科 診療講師 芹川正浩 クリニカルスタッフ 河村良太		